



松 本 紀 生 殿

松山市

■事績

松山市出身の松本紀生さんは、アラスカ大学を卒業後、独学で撮影技術を身につけ、野生動物やオーロラなど、アラスカだけを約30年に渡り撮り続けている自然写真家です。その活動は国内外のメディアに加え、小中学校の道徳や高等学校の英語の教科書でも紹介されています。

松山を拠点としながら、年の約半分をアラスカでの取材にあてています。人のいない辺境の原野にセスナ機やボートで渡り、ひとりでキャンプをし、ありのままの自然と対峙する、というのが松本さんのスタイルです。夏は無人島生活をしながら熊やクジラを撮影。冬は氷河の上に自作するかまくらで数十日間を過ごし、マイナス50度にもなる極限の環境でオーロラを待ち続けます。

日本滞在中は全国各地の学校などを訪れ、写真、映像、BGMにトークを交えたスライドショー「アラスカフォトライブ」を行い、多くの子供たちに大自然の魅力とその大切さを伝えています。

地球上の他の地域と比べて約3倍の早さで温暖化が進んでいるといわれているアラスカ。その状況に危機感を覚えた松本さんは、近年では気候変動をテーマにした取材も精力的に行なっています。「フォトライブ」でもその一端を紹介し、環境問題について多くの人々に考えてもらうなど、活動を続けています。